



ロータリー：変化をもたらす

RI 会長
イアン H.S. ライズリー

新潟南ロータリークラブ

- 例会場 / 新潟市中央区川端町 6 丁目 53 ホテルオークラ新潟 TEL 025-224-6111
- 事務所 / 新潟市中央区西堀前通 6-905 第二西堀ビル 5 F
TEL 025-222-5050 FAX 025-222-5051 e-mail niigataminamirc@wine.ocn.ne.jp
- 例会日 / 水曜日 12 時 30 分
- 会長 / 富山 修一 幹事 / 田村 淑文 会報・雑誌委員長 / 西脇 郁夫

WEEKLY REPORT

No.2825 2017.09.27 wed

ロータリーソング ①「四つのテスト」 ②「ROTARY」

3) 今週の花

「デンファレ」花言葉: 有能、お似合い

1) 富山 修一 会長挨拶



9月21日に蕎麦の更科さんで上村俊人会長の「若い根っ子の会」をロータリー情報委員会と共催で開催しました。最初に私、渡辺クラブ奉仕A大委員長、長谷川厚史奉仕プロジェクトB大委員長、角南さん、五十嵐大吾さん、小野充二さん、長谷川時雄さん、片桐由裕さんから自身の経験談を話して頂きました。皆さんから、早く友人を作る事や、まずは出席して何でも経験することでクラブとの一体感が生まれる事等、大変為になる話を多くしてもらいました。

その後、清水主税ロータリー情報委員長からロータリーの基礎知識を30分程度話して頂き、懇親会に移行しました。朝日酒造の細田さんや吉池の高橋さんからのお酒の差し入れと更科さんの心づくしのお料理を堪能し、あっという間の2時間が過ぎました。やはりロータリーは参加した人だけが楽しめ、親しくなることを実感した時間でした。

さて9月23日のNSTさんの昼12時から放映している「YOUは何しに日本へ？」と言う番組で青森のロータリー交換学生に密着した取材を30分にわたって取り上げてくれました。DVDにダビングしましたので希望する方は私までお申し出下さい。

2) ゲストの紹介

1名

米山奨学生 タム、マオ シェンさん

4) 伝達

米山奨学生 タム、マオ シェンさんへ奨学金贈呈



5) 委員会報告

①ロータリー財団委員会 (服部 正 委員長)

服部 正 君	\$ 100	ポリオ \$ 20	(\$ 2,152)
五十嵐大吾 君	\$ 20	ポリオ \$ 20	(\$ 3,560)
宮尾 益佳 君	\$ 50		(\$ 2,340)
中川 宏紀 君	\$ 50		(\$ 310)

②米山奨学委員会 (五十嵐 大吾 委員長)

服部 正 君	¥10,000	(¥245,000)
五十嵐大吾 君	¥2,000	(¥133,000)
中川 宏紀 君	¥5,000	(¥35,000)

6) ニコニコボックス紹介 (平塚 幸雄 副委員長) 3件
堀川雅弘君…行きがかりで、「上越新幹線」新潟空港乗り入れを含む、新潟・新ビジョン実現の為の市民集会の事務局メンバーに入っていました。中野 進さんが実行委員長になられています。新潟が、ますます元気に「飛び立てる」街になるよう祈念してニコニコいたします。

宮尾益佳君…眼科の定期検診で網膜に裂溝があり剥離しかけていることが分かりました。早期発見でしたのでレーザー手術で事なきを得ました。目が利かなくなると歯科医師生命が断たれてしまうので良かったです。無事

に完治したのでここにニコニコします。
古塩充君…世界中で風を揚げている遠藤裕巳様、楽しい時間を作っていただきありがとうございます。

7) 幹事報告 (田村 淑文 幹事)

- ・来月よりドルレートが112円に変更になります。
- ・台中南屯RCが11月に来訪しますが、手帳型の名簿を作成します。2年前と変更ある方は申し出てください。
- ・地区大会準備の会議を9/25に行いましたが2回目の会議を10/16に開催します。地区大会当日お手伝いされる方は必ず出席をお願いします。



会員数	算定対象者	出席者	出席率
106	102	68	66.67

《卓話》

「白根大風の歴史と風の魅力」

新潟県なりわいの匠「風」、日本風の会会員 遠藤 裕己 さん

もうすぐ76才になります。白根で生まれて今も白根に住んでいます。今日は白根の風の歴史と魅力をお話したいと思います。

白根大風合戦は中ノ口川の両岸で行われます。川幅は約80メートル位、この両岸から風を揚げて空中で交差させて川へ落とし、相手の風綱が切れるまで両岸から引き合います。白根は江戸時代、川を挟んで村上藩と新発田藩とで藩が違っていました。対抗意識が強かったんじゃないかなと思います。

この行事は江戸時代の中頃から始まったと言われてます。旧暦の端午の節句(6月の初旬)に催される男の子の行事です。風合戦は白根だけでなく三条、今町・中之島にもあって、白根と合わせてこの3カ所が平成27年の3月に新潟県の無形民俗文化財に指定されました。国の無形文化財にも申請中です。

明治44年にレルヒ少佐が観戦、その後優勝旗が寄贈されました。それを機に翌年「白根風合戦協会」を設立し、「優勝旗争奪」が合戦の決めごととなりました。ですからレルヒ少佐の訪問は風合戦の近代化において重要な出来事だったようです。

5日間の合戦で200枚位の風を消耗します。風の製作ですが、竹は佐渡の農協さんに真竹を8メートルに切って貰い、横骨に使う孟宗竹は近くの山裾から調達しています。和紙は長野県飯山市の和紙工房にお願いしています。この風合戦のために強くした和紙を作ってくれています。紐で使う麻は栃木県鹿沼市まで買いに行きます。できるだけ丈夫な麻になるように刈り入れ時期を調整してくれています。

雪が融けて屋外で作業ができるようになる3月頃、竹割

紹介者：プログラム委員会 古塩 充さん



りが始まります。割った後は天日に干して軽くします。4月になると紙を貼り骨組を作り、それが終われば色塗りです。合戦が終わった後は自分たちで後片付けをします。

風合戦の魅力と言えば、「破壊の美学」とでもいいでしょうか。自分たちで作ったからこそ壊せるもの。そして風自体の美術性と飛翔性も魅力と言えるでしょう。

海外からも声が掛かり、イスラエルやデンマーク等で披露しました。風にパワーがあるから伝統行事として続いているということです。これからもずっと続いてほしいと願っています。

